

Citation: Stead LF, Perera R, Bullen C, Mant D, Lancaster T. Nicotine replacement therapy for smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 1. Art. No.: CD000146. DOI: 10.1002/14651858.CD000146.pub3.

CRG名: Tobacco addiction

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 31 October 2007.

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 3, Updated

背景: ニコチン代替療法(NRT)の狙いは、喫煙欲求とニコチン禁断症状を軽減させるために、たばこから摂取するニコチンを一時的に置き換えることで、その結果、喫煙から完全な禁煙への移行を容易にすることである。

目的:

・禁煙支援において、プラセボと比較したNRTの効果を検証し、禁煙達成において異なる剤形のNRT(ガム、皮膚貼付剤、経鼻薬、吸入剤、舌下錠/ロゼンジ)で効果に違いがあるかどうかを検討すること。

・1回投与量、NRTの剤形や使用のタイミング;喫煙者へ提供される追加アドバイスやサポートの強度;募集され、治療された喫煙者の臨床環境、によって結果に影響が出るかどうかを検証すること。

・NRTを組み合わせることが、1タイプ単独よりもよりよい治療結果を導くかどうかを検証すること。

・NRTが他の薬物療法と比較して、おおよそよい治療結果が得られるかどうかを検証すること。

検索戦略: 標題、抄録、キーワードに“ニコチン”または“NRT”を含むCochrane Tobacco Addiction Group trials register for papersを検索した。最終検索は2007年7月。

選択基準: プラセボや無治療と比較したNRTの効果や、異なる投与量のNRTの効果を比較したランダム化比較試験。禁煙率が記載されていない試験や追跡調査が6か月に満たないものは除外した。

データ収集と分析: 被験者のタイプ、投与量、継続期間、NRT製剤の種類、結果判定、ランダム化の方法、追跡の完全性について、重複してデータを抽出した。主な結果判定は、調査して最低6か月以降の禁煙であった。それぞれの試験に対し、禁煙の最も厳格な定義と、利用可能であれば生化学的に確認された禁煙率を使用した。それぞれの試験におけるリスク比(RR)を算定した。メタ解析を行うことが適切な場合、マンテルヘンツェルの固定効果モデルを用いて行った。

主な結果: 132の試験について確認した;4万人以上の被験者を対象とした111試験がNRT製剤群とプラセボあるいは非NRTコントロール群間の一次比較に寄与した。NRT製剤全体のコントロールに対する禁煙のRRは1.58(95%CI1.50~1.66)であった。各々のタイプのpooled RRはニコチンガムでは1.43(95% CI: 1.33~1.53, 53試験)、ニコチンパッチでは1.66(95% CI: 1.53~1.81, 41試験)、ニコチン吸入剤では1.90(95% CI: 1.36~2.67, 4試験)、ニコチン舌下錠/ロゼンジでは2.00(95% CI: 1.63~2.45, 6試験)、ニコチン経鼻薬では2.02(95% CI: 1.49~3.73, 4試験)であった。効果は治療期間、提供される追加サポートの強度、NRTが使用された場に依存しなかった。処方箋なしで取得したNRT使用の評価を目的とした小試験群でも効果は同様であった。重度依存の喫煙者において、ニコチン含有量が2mgのガムに比べ4mgのガムは有意な効果があったが、高容量パッチの効果のエビデンスは弱かった。ニコチンパッチと急速にニコチンを放出するNRT製剤の併用は1種類のNRTよりも効果的であった。1つの試験だけがNRTと他の薬物療法を直接比較していた。この試験においてはニコチンパッチを使用した禁煙率は抗うつ薬のブプロピオンを使用したよりも低かった。

レビューアの結論: 商業的に利用可能なすべてのNRT製品(ガム、皮膚貼付剤、鼻腔スプレー、吸入薬および舌下錠/ロゼンジ)は禁煙を試みる人々の禁煙の可能性を増大する。NRTは状況にかかわらず、禁煙率を50%

~70%引き上げる。NRTの有効性は個人に提供された追加サポートの強度からは大きく独立しているようである。より集中的なサポートの提供は、禁煙の可能性を高める有益性はあるが、NRTによる禁煙成功の本質的事項ではない。

(翻訳 川合厚子・監訳 中村正和; JCOHR)

翻訳公開日: 10年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。